



後地の大切な神輿



短歌の色紙の写真

私が後地小学校に赴任した時はコロナ禍で地域のお祭りが出ない状況でした。そのような中、ある町会の方から「このままでは、子ども達がお祭りを忘れてしまう。だから、校庭で町会の子ども神輿を担がせたい。」と相談がありました。当日、各町会の半纏を羽織った方々が集まり、子ども神輿を組み立てます。子ども達は楽しそうに神輿を担ぐことができました。大人と子どもが一つになって、お祭りの素晴らしさを蘇らせ、笑顔が溢れました。

赴任して三年目に、町会の方々から後地の神輿の話伺う集会がありました。本来五本の心棒で支える神輿が、この神輿は四本しかないの、神輿を揺らすのではなく気持ちを一つにして「和を背負（しよ）う」という意味で「わっしよい」と言ってせり担ぎをすることなど、後地の神輿の歴史を沢山学ぶことが出来ました。昨年、後地のお祭りに参加しました。夜宮で空を見ながらせり担ぎをすると、月の明かりが私たちを照らし、心が一つになる瞬間を味わい心の高まりが止まらないほど感動しました。お祭りが終わり、今までのことを思い起こすと、沢山の言葉が浮かびます。それらをまとめたらこの短歌ができました。「後ろ向き 心一つに 空眺め 和を背負（しよ）い響く せりと拍（ひょう）の地」後地小学校の校長になつて、地域の方々の愛情に触れることができ、本当に幸せです。（後地小学校 校長・西川 幸延）

久し振りの平剣の話題



品川平塚剣友会は、品川区剣道連盟荏原支部所属として日々稽古に励んでおります。在籍している子ども達の大きな声を聞き、指導者も、いつも元気を貰っています。

指導者一同は『踏むな、摘むな、水与えよ』の精神で子ども達に平等の指導を心掛けております。大人剣士や、少年少女剣士は、一生懸命に稽古をし終えて、少年少女剣士は、20時には道場を後にして帰宅します。そして20時から、大人剣士だけの稽古が始まります。21時には完全引き上げの手順で月、木曜日の稽古を楽しんでおります。

6月30日、春季段級審査会が品川区総合体育館武道場で行われ、平剣の剣士も大勢が受審し、計14名が、それぞれの級や段位に合格いたしました。

春の審査会の合格者は、7月に開催される子どもと保護者、指導者の交流の場である納涼会にて、秋の審査会の合格者は、12月に開催される納会にて、子どもから大人まで、合格短冊を飾り、お祝いの言葉を述べあいます。また、子ども達から、年間の抱負や反省を発表して貰います。都度、子ども達の成長ぶりを感じて、指導者の喜びとなっております。

『心正しからずんば 剣また正しからず』先人の教えを大切に出来る環境を模索しながら子ども達と剣道を楽しんでおります。（荏原三丁目・池田 晴夫）



稽古の様子

荏原七福神めぐり



品川区内には、東海七福神めぐりと荏原七福神めぐりの二つの七福神めぐりコースがあります。七福神めぐりは、室町時代末期頃から日本各地で始まり、江戸時代に各地で盛んとなり、当時の人々は元日から七草までに詣でれば、七つの災難を除き七つの幸福を授かると信じ、近くの七福神を巡り歩いたそうです。

東海七福神めぐりは、昭和7年に、品川町、大崎町、大井町、荏原町の東京市編入を記念して制定され、旧東海道周辺に点在する寺社を巡る約5km、品川神社から磐井神社まで約1時間のコース。荏原七福神めぐりは、郷土荏原を見直すきっかけにしたいとの願いから、平成3年に生まれた新しいコースで、西小山の小山八幡神社から大井町の大井蔵王権現神社まで約6.5km、所要時間約2時間で巡ることが出来ます。

まずは、地元に近い荏原七福神のコースを巡ってみました。近くに住んでいながら歩いたことのない道を地図を頼りに巡るのは、小さな冒険の様で楽しく歩くことが出来ました。途中驚いたのは、西大井にある養玉院の如来堂で、木製の五体の大仏様（大日、薬師、阿弥陀、釈迦、宝勝）に出会えた事です。今回初めて知りましたが、「大井の大仏（おおぼとけ）」として親しまれているそうです。

それぞれの寺社では、御朱印は勿論の事、その他にも専用の色紙に御朱印スタンプも押していただけます。次は、東海七福神を巡ってみたいと思います。（小山三丁目・澤田 恵子）



大井の大仏